

2007.5-6 S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

埼玉アートシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



SAITAMA ARTS FOUNDATION
[財]埼玉芸術文化振興財団

9

2007.5-6

森山良子 × 蜷川幸雄

[talk·talk·talk]



SAITAMA GOLD THEATER

彩の国さいたま芸術劇場アーツ・コミュニケーション・シリーズ

第5回

talk・talk・talk

RYOKO MORIYAMA

YUKIO NINAGAWA



森山良子

■歌手 森山良子

1967年「この広い野原いっぱい」でデビュー。その後、ミリオンセラー「禁じられた恋」をはじめ「涙そうそう」、「さとうきび畑」など、数々のヒット曲を生み出す。透明感のある歌声と歌唱力で、名実ともに日本のトップシンガーに、国内にとどまらず海外でもコンサート活動を続ける。長野冬季オリンピックや愛・地球博の開会式ではテーマソングを披露し、世界中に放送された。2006年第48回日本レコード大賞で「涙そうそう」が特別賞を受賞。11月スタートの毎週木曜フジテレビ系ドラマ「母、父上様」の音楽を担当。3月文化庁より芸術分野で優れた活動をした人に贈られる2006年度の芸術選奨 文部科学大臣賞を受賞。「森山良子コンサートツアー2007〜2008」で全国ツアー中。

山の手のお嬢さん VS. 下町の露悪的青年

蛭川(以下N) 「talk・talk・talk」シリーズ、第5回のゲストは森山良子さんです。僕が「次回の対談の相手を森山良子さんにしてくれない」と言ったら、狼がリスを食べるように思うのか、「ええ?」とみんなが驚くわけです。でも僕は前からファンでしたし、僕が演出した『近松心中物語』を新しくしようと思った時も歌を唄って頂きました。それよりも具体的に浮かんだ理由は、先日、新宿の丸井の裏の路地で森山さんとすれ違ったんですが、その時歌手の森山良子です!とおっしゃったんです。歌手と言わなくても、わかりますよと思いましたが、そのデリケートさとなんとなく身を引いている美しさに負けて、是非お会いしていろいろなお話を聞こうという勇氣が沸きました。

森山さんどうぞ。(拍手) あの時のこと、覚えていらっしゃいますか。

森山(以下M) 覚えております。あの辺りによく買い物に行きます。蛭川さんとお会した時は急ぎ足で、「わあ!いけない。こんな所を見られてしまった」という感じでした。

N 森山さんの番組(「森山良子のハート・オブ・ポップス」)がTBSラジオで11時頃から始まるのですよね。ここ彩の国さいたま劇場に通ってくる時に車の中で聞いていますが、心が和んで劇場に入ることが出来ます。そのラジオ番組でいろいろなお話をしていました。矢野顕子さんと子供の歌を唄っているのを番組で聴いて「いいなあ」と思っていました。皆さま聴いたことがありますか。(拍手)

M ありがとうございます。ほとんど実にならないことばかりをもう20年しゃべっていますが、いろいろな励ましのお便りを頂きます。でも一度「もうちょっと、社会的な実のあることをしゃべったらどうか」というお便りを頂きました。「もし社会的な実のある話が出るのだったら、歌など唄ってないわい」と思いました。(笑)

N 実際の森山さんを目の当たりにすると、他の媒介を通じて知る森山さんと違って、生身の何かを感じてライブはいいですね。(拍手)

そういう話を聞くと、森山さんは山の手のお嬢さんだよね。僕は埼玉県出身だし、高校も西日暮里の下町でした。だから言葉は汚いし、山の手コンプレックスがあるから露悪的になっていきます。

M 私にはちょっとそういう感じがわかりません。全然お嬢さんではないですし、たまたま生まれ育った所が渋谷だったというだけの話です。ですから下町とか山の手とか自分では考えたことはないのです。大きくなってから下町の人が、「山の手が」と言うので、「ああ、そういうふうと思うの

今、気になるアーティストをお迎えし、公開で対談をする彩の国さいたま芸術劇場アーツ・コミュニケーション・シリーズ「talk・talk・talk」第5回は、森山良子さんが登場。対する蛭川幸雄は実は以前から森山さんの「ファン」。それだけにいつもの舌鋒の鋭さは影を潜め、森山さんを「山の手のお嬢さん」と見る蛭川は、下町の(本当は純情でシャイな)露悪的青年と言ったところ。おまけに予期せぬ歌のプレゼントまであり、満員の観客で埋めつくされた彩の国さいたま芸術劇場 大ホールに幸せな時間が流れた。

かなあ、私は地域の違いだけとっていました。

N 失恋したことのない人は、振られた人の気持ちがわからないのと同じ感じですね。振られた経験がなく、伸び伸びと育った人はいいですね。

M それでも人生の中にはいろいろな事がございますよ。

N あるのですか。

M ないみたいです。

本当はコンプレックスだった高くて美しい歌声

N ええ。では少し真面目に。

森山さんの声は美しい声ですね。僕らの世代だと、外国のジョン・バエズ、ボブ・ディランを聞いたりした初めの頃の世代だと思いますが、美しい声であるということに対して劣等感を持つということはないのですか。というのは、ボブ・ディランだと、本当は良い声なのだけれどわざと悪い声にしているのかなあと思うのですが、森山さんはそういうことはないのでしょうか。

M 子供の頃からすごかったです。非常〜にそのコンプレックスは大きいんです。デビューする時とにかくキーを下げたくて、何度も何度も一曲ごとに聞てきましたが、結局キーを上げた方が聞きやすいので、全部のキーを一番高い所に合わせたわけです。

高い声が森山良子の声としてファンの間に定着しているのですが、「きれいな声ですね」と言われると、「きれいな他には何かないのかなあ」と思います。きれいな声は自分にはとても大事ですが、それだけではなく、もっと深い思いのある事が自分の中でも表現したい、自分のやりたかったことも違う所があったので、今でもある意味では、きれいな声だけという印象だけではなく、深く低い声もどどん出して使っていきたいと思っています。

N 直接関係ないですが、歌舞伎役者の女形である坂東玉三郎さんの舞台を観て楽屋に行くと、「玉さん、きれいだっただよ」と言ったら、「うれしいけれど、いつもみんなにきれいと言われるから、もっと違うことを言って」と言われました。

M 今度から私もそう言うおかしら。ただ反面、きれいな声が自分の一番の特技だとしたら、他の所をもっと深くえぐって、そこだけはキー上げていかなければいけないという、責任感のようなものはすごいです。

N 若い時から少しずつ年を重ねてくると、音は下がっていくものですか。

M 人によると思います。どどん下がっていくのが普通だと言われてい



蛭川幸雄

■(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家 蛭川幸雄

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年4月には「さいたまゴールド・シアター」の活動を開始。6月には、イギリスでのBBC主催「コンプリートワークス」に日本で唯一招待され「タイタス・アントニウス」を上演し、絶賛を浴びた。まさに世界で舞台に飛躍し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞を受賞。

ますが、私はある程度自分で開発したりしています。

N それは、本来は下がるはずだが、レッスンの方法で高い声をキープしているのですか。

M そうです。低い方が出るようになれば、高い方も自然に出てくるようになります。高い方の出し方がわかってくると、低い方の出し方もわかってきます。そういうことで私は音域が広がっています。

即興で奏でるジャズと即興の境地に至った演出

N 最近の森山さんの活動を見てると、伸びやかで、恐れなくて伸び伸びしているっていういいなあと思いますが、本当にそう受け取っているのか、それとも「蜷川さん、私だっていろいろ苦労があるのよ」という反論はあるのですか。

M いえ、恐れはないです。とにかくチャレンジしてみるというか、例えばジャズを歌う時に即興でアドリブをするわけです。ミュージシャンは毎日毎日アドリブがどのくらいの所までいっているか、死にもぐるいで自分の一番格好いい音を探していくというプレイを

**最近の僕の演出も即興演奏のよう。
それはようやく僕が到達しかかっている
自由な境地です。**

しています。そういうジャズミュージシャンの人たちとここ数年仕事をしてますが、彼らのプレイぶりに私も負けたくないと思っています。もし変な所に行ってしまっても、そのイメージしたものを歌ってみるという事がすごく大事ですし、もちろんメロディーラインをきちときれいに歌っていくものもありますが、ジャズ的な要素でこの歌を唄ってみようと思った時は、自分が今までに飛んだことがない場所の音に自分を弾ませて持っていくという、そういう行為は日々繰り返し行っています。そこが楽しいです。

N ジャズはそういう基本的なメロディー、リズムの運びは別として、即興でつないでいってかセッションしていくとかそういう要素は多いものですか。

M 全てがそうです。絶対に昨日とは同じ演奏はしないという彼らの哲学のようなものがあります。

N どう出られても、それをキャッチして、「こういくぞ」というのは計算ではなくて、身体的、生理的な反応に近いようなものになっていくわけですね。

M そうですね。最初のうちはなかなか音が取れなかったりする事がありますが、何度か繰り返していくと、音が飛ぶ動機というかそれが少しずつわかっていきます。それはとても不思議なのです。ときどきジャズライブツアーをしますが、普段歌っていないいきなり「ボン」とジャズに入るとすごく怖いのです。だからいつもその中に触れていると、「ボン」と何かを放られた時に即座に「ふん」と返すことが出来ます。

N 僕の演出は何かという全部決めて、意に沿わないと物をぶつけて、眉間に青筋を立ててと言われますが、最近では即興演奏みたいなのです。「では、柳の木のセットにします」と言うと、みんなでどんな柳にしようかなあとか、小道具、照明などが勝手に作って、「色はどうします」と聞いてくるので、「淡いのにしてくれろ」と言う。それぐらいの打合せにしかしてないのです。言ってみればほとんど即興で進んでいくのです。それはようやく僕が到達しかかっている自由な境地であるし、ジャズのように優れたプレイヤーの方がいっぱいいるので一緒に遊べるし、みんなが自在に自信を持ってやり始めて、チームが動く楽しさが最近ようやくわかってきました。一応は成長しているのです。

M ああそうですか。今まではいかがだったのですか。



N 120頁紙の上で作って、ノートに約1mmぐらいの字で、「照明、フェイドイン。何々動く。どここの誰がどういう顔してどっちに行った……」そして絵が描いてあって、動きが書いてありました。しかし最近では始めから終わりまで何も台本には書き込みがなく、何の痕跡もないのです。その時の頭の中にしかないのです。ただ「おい、行こう」とやっているだけなのです。だからすごいですよ。

M 乱暴者ですね。

N そうですよ。

僕らは才能があるのか大したことないのか

N 話が飛びますが、森山さんは作曲はいつなるのですか。

M 作曲は深夜にします。深夜にならないと始める気がしないのです。締め切りまでにこういう曲を作らなければいけないというのがあるのですが、辺りが静まって深夜になると、「さあ、作らなければ、作らなければ……明日から」というみたいな感じです。それがすごく長いこと続くのです。それでメロディーの破片だけを繰り返して、繰り返して何かをしながらでも覚えておくのです。「出だしのメ

ロディー」と「さびのメロディー」だけは自分の中でだいたい出来ているのです。

N 部分的に出来ていくのですか。

M そうなのです。こういふふうに始めて、さびの所はこういう感じにしようというのは空で考えるのです。それを考えた時に、「出来たのも同然！」と思っちゃうのです。ところが締め切りの前日とか前々日になっていざテープを回して作曲し始めると、頭とさびが出来ているのにどうしてもその先が出来なかったりするので。

N そういう時間にお酒を飲んだりしないのですか。

M お酒を飲んでいる時もありますが、お酒を飲んでいる時は、すごく自惚れた気分になっているので「最高！」と思うのですが、次の朝に聞いてみると、すごくへそさんだったりするので。



N 真夜中に書いたラブレターが翌朝読むと、ダメなのがありますよね。

M そうですよ。思いがグーッと入り過ぎちゃって。

N 僕はこの頃よくあるのですが、これは絶対いけると思っていたのが、翌朝に忘れていたのです。「ああ、書いておけばよかった」ということがあります。そういうことはあります。

M あります。それは絶対に年のせいではありません。私も昔からそうなのですが、「このフレーズ最高。これは忘れるわけがない」と思って書き留めないのですが、次の朝、見ると結構ありきたりのフレーズだったり、まったくかけらも思い出せなかったりです。それはひらめいた時に、そのまま何かに写しておかなければいけないのです。気をつけましょう。

N もしかしたら、僕らは才能があるということかもしれません。もしかして次の朝見たら、大したことないかもしれない。

M こういう対談とかでしゃべるだけだと、ときどきします。歌を唄うととても落ち着くので、一曲唄わせて頂いてもよろしいでしょうか。(拍手)

N 喜んで。こんな贅沢な。皆さん、いいですよ。

～♪(ギターの弾き語りで)「涙そうそう」～ (拍手)

N どうもありがとう。すごく得した気分、やはり素敵だった。芝居は歌に負けるなあ。たった3分で僕らの2時間分ぐらい、やられるなあという感じ。でも強いなあ。

M 私も先生のお芝居をいつも隅から隅まで凝視しながら楽しませて頂いています。

実はこの前インドに行ったのですが、インドの下町の所を歩いている時に蜷川先生の舞台のイメージとすごく重なったんです。先生の舞台の上の人間模様はとても多彩で、色もありとあらゆる色があり、富めるもの貧しきものの差をいろいろと表現されていますが、インドに行った時に映像として、「蜷川先生のお芝居に出てくるような風景だ」という感じがしました。

N インドはいかがですか。みんなが「あなたは、インドはダメだ」と言うのです。あまりにも汚すぎてダメなんではないかと言いますが、そんなことはなかったですか。

M すごく汚いです。

N 何でそんなに平気なの。

M 平気ではないのですが、とにかく生ものはダメ、生野菜も

**ジャズでは即興で、
今までに飛んだことがない場所の音に、
自分を弾ませて持っていきます。**

水で洗ってあるから食べてはいけないとか、旅行者にすごく規制が多かったのです。でも見る物全てが生まれて初めてというか、戦後すぐの日本が入り混ざっているのです。見たことのない光景が次から次へと現れてくるので、「ええ！ええ！」と言っている間に10日間たちました。

N 僕は偉そうに見えるけど全然ダメなんです。怖がりなので、虫がダメです。泥の中を歩くのは子供の時から、ダメです。フィクションだと平気なのです。そういうのは好きだから一生懸命がんばって作るのだが、実物はダメだね。森山さんは勇気があるんだね。

M そうです。何でも興味があります。

蜷川先生もう一曲唄ってお別れしてもいいでしょうか。きょう集まって頂いた皆さまと蜷川先生にお贈りしたいと思います。

～♪(手のひらで小さなオルゴールを奏でながら)「——Eternally ~エターナリー」～ (拍手)

N 今日は爽やかな空気に触れて、ちょっと幸せな気分が帰ることが僕たちは出来ます。ありがとうございました。



2007.3.3
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

さいたまゴールド・シアター 第1回公演

船上のピクニック

1年の成果を
この舞台にぶつける!

作 岩松了 × 演出 蛭川幸雄

昨年5月に始動した「さいたまゴールド・シアター」は、およそ1年間にわたる活動の成果を、岩松了の新作書き下ろしという、これ以上ない作品で披露することになった。46名全員に役をつけるという難題に取り組んだ岩松氏が、脚本に込めた想いとは何か。届いたばかりのメッセージとともに、この作品とさいたまゴールド・シアターの魅力に迫る。

蛭川幸雄の「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会うことは可能ではないか」という呼びかけに始まった「さいたまゴールド・シアター」。昨年、大稽古場で、7月「Pro-cess ～途上～」、12月「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる(清水邦夫作)」と、プロセスとして実施した2回の公演は、いずれも大きな話題となった。

そして、2007年6月、いよいよ、この1年間の集大成となる第

さいたまゴールド・シアターは、その設立を発表した日から、様々な方面から注目を浴び、稽古風景や2回の中間公演も多くのメディアで取り上げられた。そのほとんどは高齢者で劇団をつくるという画期的、意欲的な取り組みに賛同し、共鳴するもので、特に2回目の中間公演「Pro-cess 2」『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる(写真)』は、年間のベスト1として挙げた劇評家もいるなど大好評を得た。以下に主だった記事の抜粋を掲載する。

「2回目の中間発表会である『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』は、劇団の可能性を存分に感じさせた」高橋豊(テアトロ2007年3月号)

「演じるプロではない人々の存在そのものから生まれる表現の豊かさ」山口宏子(朝日新聞 2006年12月2日)

「老婆たちの狂気の乱舞が高齢者劇団の年齢がものをいって説得力があった」安達英一(悲劇喜劇2007年3月号)

1回公演を行う。会場は、彩の国さいたま芸術劇場小ホール。今、団員たちは、稽古場で、公演の稽古に取り組む日々だ。一瞬一瞬を逃さず捕まえようとする各々の真剣な表情から、この公演にかける思いの強さが伝わってくる。

上演作品は、「今」を代表する劇作家のひとりである岩松了氏によるゴールド・シアターのための書き下ろし。『演出家蛭川幸雄 × 現代や人間の深層を独特の視点で浮かび上がらせる岩松作品 × ゴールド・シアター』という掛算は、いったいどんな世界を見せてくれるのだろうか。そこから立ち上がる新たな演劇の可能性に期待が高まる。

今号に、その岩松氏がメッセージを寄せてくれた。岩松らしい語り口の中には、ゴールド・シアターの本質が垣間見えている。

またがれる快感

岩松了

なにせ46人の登場人物ですから、人間関係の妙を描くことに心血を注ぐ私としては「いかにも多すぎ」だったわけですが、そこにあえて挑戦してみようと思ったのは、他ならぬ蛭川さんの依頼だったればこそです。その46人が55才以上の人たち(多くは60代、70代)だというのも魅力でした。この46人と出会いたい、と私は思ったのです。それは彼らがその年で演劇と出会った、その出会いに宿るはずのドラマを私にも分けてもらいたい、そう思ったからです。なにしろそれは、演劇の根源にかかわることかもしれないではありませんか。

蛭川さんは、秀れた演出家でありながら、作家の方が演出家より上だという態度で、この私ごときにすら、接して下さる。しかしながら実は、この姿勢に私は或る脅威を感じ、ちょっと冷や汗をかいたりもするのです。すでに私は蛭川さんに「演出されている」のではあるまいか。その脅威です。こんなやり方で劇作家を緊張に追いこむなんて実に憎い。そして私といえば、この感じがたまらなくて、蛭川さんにこの身をあずけよう、そう思ってしまうのです。

私自身も演出家と呼ばれることはありますが、心のどこかには、やはり演出家ではないという思いがあります。そして演劇を演劇たらしめるのは演出家をおいて他にないということも重々承知しています。先に根源という言葉を使いましたが、演出家はやはり戯曲

が在る前に、人間が演劇を志向する不思議、そのことに思いを馳せているにちがいないのです。だから、蛭川さんがこうしてゴールド・シアターを持ったことは、話題性などということとは無縁で、実に、実に演劇的な行為であるのだと私には思えるのです。演出家としての資質が、それも秀れた資質が《人間が演劇を志向する不思議》をまたごとくしている。そこに劇作家として参加しようとしている私もまた、またがれているにちがいないのです。

STORY

海上を進む豪華客船。一昨年の大量解雇でリストラされたベテランのホテル従業員たちを乗せたその船は、再就職先となる、とある国で建設中のリゾートホテルに向かっている。それぞれが不安や希望など様々な思いを抱えつつも、その船上では仲間の結婚を祝う宴が催され、その最中にボートで漂流していた難民たちを助け上げる事態に……。言葉の通じない難民たちが同乗した船の上では、不協和音や猜疑心が満ちる気配が覆い始め、事件の予感が……。

さいたまゴールド・シアター 第1回公演

『船上のピクニック』

【日時】6月22日(金)～7月1日(日) 全9公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【作】岩松了 【演出】蛭川幸雄 【出演】さいたまゴールド・シアター

【チケット(税込)】発売中 全席指定3,000円

さいたまゴールド・シアターの歩み

2006年
2/1～28
2/14～30

2006年
2/1～28
2/14～30

2006年
2/1～28
2/14～30



彩の国さいたま芸術劇場 小ホールで行われた本格的なオーディションに、緊張を隠せなかった参加者たち。
©Anoki GROESCHL

4/21
2006年
4/21

2006年
4/21



多くのメディアが取材に訪れた記者発表。
©山下隆博

5/1
2006年
5/1

2006年
5/1

2006年
5/1



ダンスのレッスンを受ける団員たち。最初は体も思うように動かなかったのだが…
©山下隆博

7/28～8/1
2006年
7/28～8/1

2006年
7/28～8/1

2006年
7/28～8/1



5日間の公演の蛭川の採点は、初日が55点、千秋楽が80点。人前で演技をすることが成長の糧になることを皆、実感した。
©◎田森

9/13
2006年
9/13

2006年
9/13

12/1～4
2006年
12/1～4

2006年
12/1～4

2006年
12/1～4

2006年
12/1～4

2007年
1/24
2007年
1/24

2007年
1/24

2007年
6/22～7/1
2007年
6/22～7/1

2007年
6/22～7/1

2007年
6/22～7/1



世界の巨匠たちの初顔合わせで贈る、今夏、最大の話作

スペクタクル・オペラ
見世物祝祭劇

エレンディラ

erendirra

原作 ガルシア・マルケス × 音楽 マイケル・ナイマン × 演出 蛭川幸雄

ノーベル賞作家ガルシア・マルケスによる極彩色の哀しき寓話は、最高級のベルシャ絨毯のような圧倒的濃度の情景描写で読む者すべてをその世界に呑み込む。疾走する百両の列車、雪化石膏の天使像、七色に変わるガラス細工、そして白鯨のような巨体を揺する、無慈悲でいて残酷な祖母。無垢な少女エレンディラは、この祖母に命ぜられるがままに砂漠で春を売りはじめる。だがそこにある日、空色の瞳を持つ墮天使のような青年ウリセスがあらわれ……。それぞれ蛭川演出は初となるウリセス役の中川晃教とエレンディラ役の美波に、この抒情的スペクタクル世界に飛び込むまえの心境を訊ねた。

文：岩城京子（フリーライター）



左より、蛭川幸雄（祖母役）、美波、中川晃教、園村 集（作業者） © 蛭川幸雄

Akinori
Nakagawa



中川晃教（ウリセス）

ウリセスのことをすごく簡単に説明すると、彼は美しい女性に翻弄されてしまう少し純真な男の子（笑）。だけどそれだけではなくて、僕はこのウリセスという青年を非常に多面的に捉えているんです。たとえば彼は原作では「空色の瞳を持つ墮ちた天使のような金髪の青年」と描写されますが、だからと言って、ただ単に純粋で美しいだけの青年ではないと思う。多分この描写は原作者がウリセスを象徴的に説明するときに使用した、いわば「言葉の世界でのイメージ」だと思うので。それを生身の人間として演じる僕としては、ピュアな容貌のなかに潜む痛みや汚れもきちんと出していく必要がある。フィルターを一枚かぶせた「作りごと」として世界を提示するのではなく、「生身の人間」を演じることが大事だと思うんです。

そんな僕にとってのウリセスのイメージは「砂」。表面は焼けるような熱さだけど、手をずぶんと突っ込むと湿気や冷たさを感じられて。見るだけのときと手で触れたときの印象がずいぶん違う。それでいて風のなかに放っておいたら消えてなくなっちゃうような儚さもあって、とても難しい役ですね。

とにかく僕は今回、人生初のストレートプレイに挑むことになる。なので劇中、歌を歌ったりすることもあります。そうした自分の得意分野ばかりに頼らず、今までの中川晃教を一度すべて壊したところから始めたいと思っています。だって蛭川さんの作品を観ることは誰でもできるけど、蛭川さんの世界に入って“体感”することができるのは限られた人間だけです。空っぽの状態で稽古場に入っていて、なるべく色んなことを体感したい。それで蛭川さんと一緒に、素晴らしいスペクタクルな世界を作り上げていければと思います。

M
inami



美波（エレンディラ）

私はもともと美しさと毒が表裏一体になったような世界観が大好きなんです。たとえば寺山修司さんの文学とかもそう。なので今回、ガルシア・マルケスの原作小説に初めて触れたときも「ああ、すごく素敵な世界だな」とずっと共鳴することができた。ただあまりにも幻想的すぎて、本当に舞台化できるのか。そこには正直、不安も感じていました。だけど坂手洋二さんの脚本を読ませて頂いたら、原作以上にロマンチックで、ひとりひとりに癖のある人物像が描かれていて「あっ、これは素敵な舞台になりそうだ」と信じることができました。しかも蛭川さんは脚本に書かれていることを、本当に美しく再現して下さるでしょうから。鳥肌が立つような幻想的世界が、作り上げられるのではないかとと思っています。

無垢な少女、と原作では言われるエレンディラですが、私のなかでの彼女は逆に“毒の花”のような存在。薄いオレンジの少女がふわっつと熟して真紅の花 になったと思ったら、すぐに緑になっちゃったみたい（笑）。なので美しい赤さで周りを惹き付けておいて、その実、なかには緑の毒を持っているという少女像を作り上げていきたいですね。だってエレンディラって時々、恐ろしいほどおばあちゃんに似て冷血なときがあるんです。表には出さない威圧感や怖さが秘められている。ウリセスにも「あんたは満足に人も殺せないのね」と言い捨てたりする。そんなエレンディラのひやっつとするような一面も大切に演じたいです。

あとは私の課題は、演技はもちろんのこと歌ですね。人前で歌うのは初めてなのですが、蛭川さんに「私、歌も頑張ります」と言いきってしまったので……、なるべく舞台上で「気持ちいいな」と思って歌えるよう稽古に臨んでいければと思っています。

STORY

過失から祖母の家を全焼させてしまった少女エレンディラは、その責任をとるため、祖母により、娼婦として1日に何人もの客を取らされている。その美しさから、瞬く間に男達の人気を集めていたエレンディラだったが、ある時、彼女は本当の愛を誓う美青年ウリセスと出会う。2人は祖母からの脱出を試みるが、あっさりつかまってしまう。祖母から逃げるには彼女を殺すしかないと考えた2人は、それを実行しようとするが……。

蛭川幸雄演出 見世物祝祭劇

『エレンディラ』

砂漠に吹く風、男達の行列、人々が広場に集まり、祭りが始まる。その時、世界の中心で待ち望まれた奇跡の娘が現れる。その名はエレンディラ。

【日時】8月9日(木)～9月2日(日) 全27公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【原作】ガルシア・マルケス 【脚本】坂手洋二

【演出】蛭川幸雄 【音楽】マイケル・ナイマン

【出演】中川晃教 美波 園村集 遠川哲朗ほか

【チケット(税込)】販売中

S席12,000円 A席7,000円

彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾

オセロー

蜷川幸雄、13年ぶりの挑戦

“悲劇の演出家”がシェイクスピアの四大悲劇のひとつ「オセロー」に取り組む。

実に13年ぶりの演出となるが、なぜ、今、この作品を選ぶのか。

常に作品の新しい側面に光を当て、新しい息吹を吹き込む蜷川は、今度はどんな「オセロー」を見せてくれるのだろうか。

文：木俣 冬（フリーライター）

Cast



KOTARO YOSHIDA

吉田鋼太郎（よしだ こうたろう）／オセロー

蜷川演出舞台では『コリアーナ』『オレステス』『タイタス・アンドロニカス』『間違いの喜劇』『メディア』『オディプス王』『ギリクス』等多くの作品に出演。タイトルロールを演じた『タイタス・アンドロニカス』の英国公演（2008）では絶賛を浴びた。ほかに、栗山民也演出『喪服の假令エレクトラ』、ジョンサン・ケント演出『ハムレット』など、様々な演出家の舞台に出演している。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回伊国屋演劇賞劇人賞などを受賞。



YUI AOI

蒼井優（あおい ゆう）／デズデモーナ

99年ミュージカル『アニー』で約1万人の中から選ばれ、デビュー。01年『リリイ・シュシュのすべて』で映画デビュー。その後、若手女優の中でも、どんな役でもリアリティーを持って演じられる幅広い、圧倒的な存在感を持つ実力派として高く評価され、映画を中心にテレビ、CMでも活躍し注目を集めている。06年は『ハチミツとクローバー』、『フラガール』など数多くの映画作品に出演し、女優賞を総なめ、女優としてのキャリアを握っている。蜷川演出舞台は04年の『シブヤから遠く離れて』以来2度目となる。



YOTAKA TAKAHASHI

高橋洋（たかはし よう）／イアゴ

97年ニガワ・スタジオのオーディションを受け合格、98年『ロミオとジュリエット』バルザザ役で初舞台を踏む。以後、蜷川作品に連続して出演。『近代能楽集〜卒塔婆小町』、『真情あふれる軽薄き2001』では主役をつとめる。近年の出演作に『タンゴ-冬の終わりに』『あわれ彼女と結婚』『白夜の女騎士-ワルキューレ』などがある。過去の彩の国シェイクスピア・シリーズ『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『悲劇の演出家』には、いずれも重要な役で出演している。

S a i n o k u n i S h a k e s p e a r e S e r i e s V o l . 1 8

Othello

13年ぶりの再挑戦

疑惑。それはいつも人を底知れない闇に突き落とす。

『オセロー』は疑惑にからめとられた人間の姿を描いた作品。シェイクスピア4大悲劇のひとつで、言うまでもないが、他に『ハムレット』『リア王』『マクベス』がある。

彩の国シェイクスピア・シリーズ（SSS）では『お気に召すまま』（04年）『間違いの喜劇』（06年）『恋の骨折り損』（07年）と、生きる喜びに満ちた幸せな喜劇を演出する蜷川幸雄だが、本来“悲劇の演出家”という異名も持ち、昨今では『タイタス・アンドロニカス』『コリアーナ』と人間同士の葛藤の中で悲劇的な最期を迎える者の生き様を鮮烈に観客の心に刻みつけてきた。

4大悲劇は、『リア王』3回、『ハムレット』4回、『マクベス』に至っては11回も演出している蜷川が、『オセロー』だけは過去に1回しか演出していない（94年日生劇場／出演 オセロー 松本幸四郎、デズデモーナ 黒木瞳、イアゴ 木場勝己ほか）。

この10月、13年の時を経て蜷川が『オセロー』に再び挑む。SSSとしては初『オセロー』となる。

『オセロー』の悲劇、決定版に!?

『オセロー』は難しい。多くの演出家は出世に対する業の凄まじさから手練手管でオセローを巧みに陥れるイアゴに現代性を投影してしまいがちですが、ほくはオセローそのものが持っている悲劇を掘り下げたい。圧倒的な白人社会、しかも階級制の中で、有色人種（ムーア人）のオセローを感じる揺らぎを描きたいですね。ほく自身は直接的な人種差別にあったことはないけど、英国社会で仕事すると英国人と日本人の考え方がまったく違うのを常に実感します。言葉もわからないから稽古場でイギリス人同士が集まっていると、ほくの噂をしてるんじゃないか?と一瞬不安になる時がある。結局、自分自身に揺らぎがあるとあらゆるものが疑わしく思えてくるものなんです。それが今回の『オセロー』を描く発端ですね

人は安定した状態から離れてアウェーな場にいると不安になる。自分の居場所を確保するために常に他人のことを気にして、他人と差別化しようとする命にもなる。たとえば、情報を得てそれを利用したり陰口をまき散らすイアゴみたいな人もいる。「とって日常に置き換えた演出をするつもりはありません。そういう状況を世界レベルの観客から描きます。ムーア人（黒人）と白人という構造はそのままで。そしてこの人種の違いは、アジア対西欧と考えてもらってもいいと思います」

舞台俳優 vs 映像俳優 実力派の共演!

オセローに吉田鋼太郎、デズデモーナに蒼井優、イアゴに高橋洋。演劇界と映像界の俊英たちの出会いとなった。「鋼太郎と高橋はSSSと共に成長してきた俳優。実力ある舞台俳優をSSSで育てることは公共の劇場の責任だと思っています。オールメー、シリーズが成功した今、こういうキャストिंगもSSSシリーズの名物のひとつにしたいですね」

吉田鋼太郎は04年『タイタス・アンドロニカス』でSSS初登場、英国ロイヤル・シェイクスピア・シアターの舞台に日本を代表して立ち、名実共に“日本のシェイクスピア俳優”の地位を得た。高橋洋は、SSS第一作98年『ロミオとジュリエット』で舞台デビュー後『マクベス』（01年）『タイタス』初演（04年）『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』と次々出演、まさにSSSから育った俳優だ。

蒼井優は、日本アカデミー賞ほかあらゆる今年の映画賞を総なめ、出演作品も膨大な、いまや時の人。蜷川作品は04年『シブヤから遠く離れて』以来の2度目となる。子供の頃からバレエを習い、大地をつかむ安定感と天空に浮かぶ透明感を兼ね備えた柔軟さが魅力的だ。

「オセローは、愛する妻の浮気を疑うことで自滅していくから、圧倒的に若くて美しいデズデモーナであることが大事。優ちゃんはピッタリだと思います。台詞術や戯曲を読み込む力のある鋼太郎、現代的なシャープさをもつ高橋、蒼い蕾のように若く美しい優ちゃんという3人の組み合わせを楽しみにして頂きたいです」（蜷川）

STORY

ヴェニス公に仕えるムーア人の将軍オセローは、若きデズデモーナを妻とし、二人は深く愛し合っている。旗手イアゴは、自分ではなく同輩キャシオーを副官に昇進させたことで、オセローに深い恨みを抱いている。イアゴは忠実な部下を装いながら、オセローを罠にはめるべく、デズデモーナがキャシオーと通じているとそぶく。誠実なオセローはその策略にはまり、深く愛するがゆえにデズデモーナへの疑いを募らせ、その抑え切れない嫉妬心は妻の真実の言葉さえ信じることができなくなり……。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾 『オセロー』 **NEW**

【日時】10月4日(木)~10月21日(日) 全18公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【脚訳】松岡和子

【出演】吉田鋼太郎、蒼井優、高橋洋、馬淵英徳、鈴木豊、山口馬木也、塚崎彦ほか

【チケット(税込)】S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

【発売日】一般6月16日(土)

※メンバーズ優先予約につきましては、同席のプレオーダーシートにより、お申し込みください。

Sasha Waltz & Guests

サシャ・ヴァルツ&ゲスト
Körper ケルパー (身体)

ポスト・ピナ・バウシュの代表作に注目

ダンスと演劇を融合させ、ダンス界に衝撃を与えたピナ・バウシュ。

以後、ダンス界は多大な影響からいかに脱却し、新しいダンスを構築するか模索して来たが、

今、ポスト・ピナ・バウシュとして注目を浴びているのがサシャ・ヴァルツだ。

ヴァルツが目指したのは、ダンスの本質とも言える身体の可能性に立ち返ること。

『Körper ケルパー (身体)』は、まさにその代表作と言える作品。

ダンサーたちの身体を極限にまで解体し、再構築することで、

鮮やかに現代社会に生きる人々の潜在意識を切り取ってみせた。



「ケルパー」とは、日本語では身体という意味。これは、身体にできる可能な限りのあれやこれやの動きや状態を、魅惑的にも怪物みたいに恐ろしくもなれる身体を、日常とは違った視点から見せてくれるスペクタクルである。

舞台上、壁の前に13人のダンサーが登場、身体と身体が滑り合ったり、うごめいたりしつつ重なり合う。それはあたかも巨大な生きた宗教画のごとき光景にも見える。身体が徐々に変形すると個々のアイデンティティも徐々に消滅してしまう。肉体という物質は正気を失って何か別な生き物になってゆく。

『Körper ケルパー (身体)』を振付けたサシャ・ヴァルツは言う。「私の振付は身体に無理なことを課しているのではと見られがちです。ダンサーに身体能力ギリギリのことを要求するのは、テーマやメッセージを観客にちゃんと伝えるためです。はっきりと見える

ようにやらないと伝わらないことがあります。また、日常では隠れて見えぬものをみせてゆくことにもなります」

そこまでヴァルツを駆り立て、観客に伝えたいメッセージとは一体何なのだろうか。

「人々は言葉以外のところでも人間というもの、社会というものを理解したいという強い欲求を持っているものなのです。今の社会は<存在>の全体性など気にかけず、美容整形、クローン研究、遺伝子配合など身体を個々ばらばらに解体して、コラージュしているでしょう……」

超絶な技巧を駆使し、ダンサーの身体を解体し、新たな生き物として舞台上で再構築してみせる……。『Körper ケルパー (身体)』は、現代社会の奥に隠された人々の意識を投影し、ハイブリッドな生き物を生産する場所とも言えるのかもしれない。

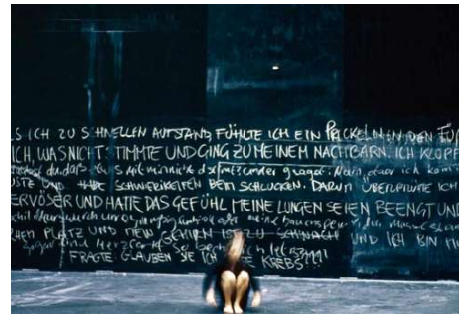
P R O F I L E

サシャ・ヴァルツ

1963年カールスルーエ(ドイツ)生まれ。アムステルダムとニューヨークでダンスと振付を学ぶ。1993年にサシャ・ヴァルツ&ゲストを結成。1999年から2004年までシャウビューネ劇場(ベルリン)のアーティスト・ディレクション・コミッティーの一員を務め、『Körper ケルパー (身体)』、『S』、『noBody』の3部作を創作。高い評価を受ける。サシャ・ヴァルツ&ゲストは、2004年には再び独立したカンパニーとなり、旺盛な活動を続けている。



©Andre Riva



サシャ・ヴァルツ&ゲスト

『Körper ケルパー (身体)』

ピナ・バウシュに次ぐ世代を代表するドイツの振付家サシャ・ヴァルツが、ベルリンのシャウビューネ劇場の芸術監督時代に創作した代表作『Körper』、『S』、『noBody』と続く「身体」三部作の第一作目として世界的な評価を確立した作品の待望の上演です。

【日時】7月28日(土) 開演 15:00

7月29日(日) 開演 15:00

※28日の公演終了後、振付家によるトークを行います。

【会場】影の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『Körper ケルパー (身体)』(2000年初演) 【演出・振付】サシャ・ヴァルツ

【チケット(税込)】発売中

S席6,000円 A席4,000円 学生A席2,000円

※8月4日(土)に滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 中ホールにて公演あり(開演14:00)。

● ピアノ・エトワール・シリーズ ● *Piano Etoile Series*

Vol.2 **イリヤ・ラシュコフスキー**

「ピアニスト100」の後継企画としてスタートした「ピアノ・エトワール・シリーズ」。ショパン・コンクール優勝者のラファウ・ブレハッチに続いて登場するイリヤ・ラシュコフスキーは、今ノリに乗ったピアニストだ。
文：道下京子（音楽評論）

昨秋、私はラシュコフスキーの演奏するシューマン《クライスレリアーナ》を拝聴した。音楽のフレーズの一つひとつが彼の言葉となり、音楽全体が対話のようなリアリティをもって丹念に描き分けられており、シューマンの音楽と自分の内面とを同化して、夢想的な世界を見事に作り上げた。この「ピアノ・エトワール・シリーズ」のために、彼は得意なレパートリーを網羅したプログラムを披露する。ロマンティズムに溢れる音楽を得意としており、そのような意味で、特にブラームスの演奏は注目される。また、シューベルトでは、彼の持ち味である深い抒情性と伸びやかな歌唱性を十分に示してくれるだろう。同じく「歌」という視点で、ワーグナーの歌劇の編曲もの（リスト編）も演奏される。彼の歌に私たちは酔いしれ、華麗なテクニックを満喫できるだろう。スクリーベンでは、ラシュコフスキーのもつ音色の豊かなバレットから描き出される神秘的な響きに、そっと耳を傾けたい。すべてに共通するのは、リリズムを蓄えた音楽であること。このプログラムこそ、彼の真骨頂の発揮どころと言える。音の余韻に身を委ね、語りかけるような演奏は、実に独特だ。ぜひ一聴をお勧めしたい。



Ilya Rashkovskiy

PROFILE
1984年ロシア、シベリアのイルクーツク生まれ。98年にクライネフ国際コンクールに優勝。2000年よりドイツ・ハノーファー音楽学校でV.クライネフに師事。01年ロン＝ティボー国際音楽コンクール第2位、翌年セントルーポールでの同コンクールガラ・コンサートのため初来日。04年2月には日本各地でリサイタルを開催。音楽性の高さと卓越した技巧で好評を博した。05年香港国際ピアノ・コンクール（審査員長：アシュケナージ）で優勝。

Vol.2 イリヤ・ラシュコフスキー NEW

【日時】9月8日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】シューベルト：4つの即興曲 Op.90 D899
ブラームス：ハガネエの主題による変奏曲 Op.35
スクリーベン：幻想曲 口短調 Op.28
ワーグナー＝リスト：イルデの妻の死（トリストランとイルデより）
ブラームス：勃き歌（さよふるオランダ人より）
幻想曲（リエンツィ、最後の鐘の響きより）

【発売日】メンバーズ 5月26日(土) 一般 6月2日(土)
※Vol.1～Vol.4までの4回セット券の発売は終了いたしました。
【チケット(税込)】S席3,500円 A席2,500円 学生A席1,000円 メンバーズS席3,150円

● 今後、発売予定の「ピアノ・エトワール・シリーズ」 ●

Vol.3 デイヴィッド・グレイルザンマー

【日時】11月23日(金・祝) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ヒナステラ：アルゼンチン舞曲 Op.2
モーツァルト：ソナタ第11番 イ長調 K331「トルコ行進曲付き」
クラフチン：ゴエツカスより 幾と死 他

【発売日】メンバーズ 7月21日(土) 一般 7月28日(土)

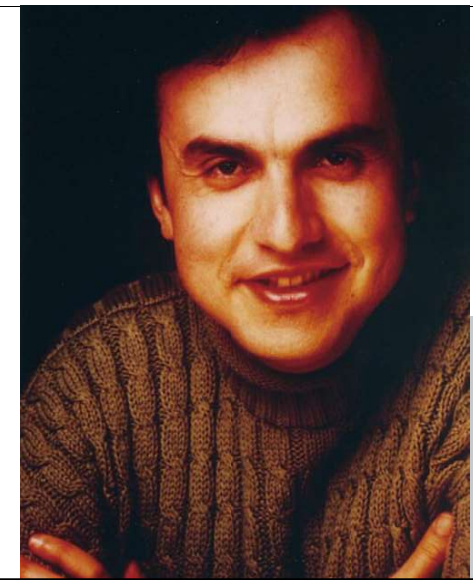
Vol.4 小菅 優

【日時】12月9日(日) 開演 15:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】パッサ：インヴェンションとシンフォニア BWV772-801
リスト：ソナタ 口短調 S178
リスト：ノクターン「夢のなかに」 S207 他

【発売日】メンバーズ 9月1日(土) 一般 9月8日(土)

【Vol.3・Vol.4 チケット(税込)】
Vol.3・Vol.4 ともに、各回
S席3,500円
A席2,500円
学生A席1,000円
メンバーズ S席3,150円

イエフィム・ブロンフマン ピアノ・リサイタル



Yefim Bronfman

世界のマエストロたちから信頼を集めるイエフィム・ブロンフマンが2年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場に登場する。今回は「ピアニスト100」のために特別に開催されたリサイタルで、ベートーヴェンとブラームスのソナタを充実した演奏で聴かせたブロンフマン。今回は4年ぶりの日本でのリサイタル・ツアーとなる。《夜のガスパール》や《イスラメイ》など、彼の並外れたテクニックと音の美しさを堪能できるプログラムに、期待が高まる。

NEW
イエフィム・ブロンフマン ピアノ・リサイタル

【日時】11月10日(土) 開演 15:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ラヴェル：夜のガスパール
バラキレフ：東洋風幻想曲「イスラメイ」 他

【チケット(税込)】一般 S席5,000円 A席3,000円 学生A席1,500円
メンバーズ S席4,500円 A席2,700円

【発売日】メンバーズ 6月23日(土) 一般 6月30日(土)

小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演Ⅱ

Michie Koyama Piano Trio

昨年12月、彩の国さいたま芸術劇場で聴衆を魅了したあのトリオが帰ってくる！
ピアノの小山実稚恵、ヴァイオリンの堀米ゆず子そしてチェロの堤剛と、3人の日本を代表する音楽家が紡ぐ迫真のアンサンブルを堪能できるのは、彩の国さいたま芸術劇場だけ！ 今回はまさに秋に聴くにふさわしいブラームスのピアノ・トリオをメインに、それぞれのソロも楽しめるのも魅力。どうぞお楽しみに！！



小山実稚恵 NEW
ピアノ・トリオ 夢の響演Ⅱ

【日時】11月17日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ブラームス：ピアノ三重奏曲 第1番 口長調 Op.8 他
【出演】小山実稚恵(ピアノ) 堀米ゆず子(ヴァイオリン) 堤剛(チェロ)

【チケット(税込)】一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席1,000円
メンバーズ S席3,600円 A席2,700円

【発売日】メンバーズ 6月23日(土) 一般 6月30日(土)

子供から大人まで楽しめる 埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!

夏休み中の子供から大人まで、クラシック音楽が気軽に楽しめる、大好評を博した昨年夏の熊谷会館での「夏休みオーケストラランド!」。「客席と舞台が一体となって音楽を心から楽しむことができた。」「または非やっほしい。」「大人も子供も大満足!」などなど、熱いメッセージがたくさん寄せられた。その「夏休みオーケストラランド!」が、今年の夏は埼玉会館に登場する。

今回のプログラムは、音楽の授業でもおなじみ、ロッシニ《ウィリアム・テル》序曲に始まり、埼玉県在住の小学生ピアニスト、尾崎優衣さんが演奏するモーツァルトのピアノ協奏曲、ウィリアムズの《スター・ウォーズ・メドレー》、そして、浦和レッズの応援歌でおなじみの、エルガー《威風堂々第1番》と、聴き応えたっぷり。また、人気の「指揮者にチャレンジ!」(公演当日参加者募集。抽選)では、実際にオーケストラの指揮をすることができたり、「みんなで歌おう&演奏しよう!」コーナーでは、歌や好きな楽器でオーケストラと(いつも何度でも)を共演できるなど盛り沢山の内容でお届けする。どうぞお楽しみに!!

埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!

【日時】8月5日(日) 開演 14:00 【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】飯森範親(指揮) 朝岡聡(ナビゲーター) 尾崎優衣(ピアノ) 東京交響楽団(管弦楽)
【曲目】ロッシニ:歌劇《ウィリアム・テル》序曲より
小室真己:ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488 より 第1楽章(ピアノ:尾崎優衣)
ウィリアムズ:スター・ウォーズ・メドレー
~指揮者にチャレンジ!~(公演当日、開演前に参加者募集、抽選)
ビゼー:歌劇《カルメン》前奏曲
~みんなで歌おう&演奏しよう!~(歌や好きな楽器でオーケストラと共演!)
木村弓:映画「千と千尋の神隠し」より(いつも何度でも)
エルガー:行進曲《威風堂々第1番 二長調》Op.39

【チケット(税込)】発売中
S席 大人4,000円 子ども(中学生以下)2,000円 親子セット(大人1枚+子ども1枚)5,600円
A席 大人3,500円 子ども(中学生以下)1,500円 親子セット(大人1枚+子ども1枚)4,500円
※3歳未満の子供は無料(0歳は別途料金あり)
※子ども券、親子セット券は、埼玉会館・彩の国さいたま芸術劇場・熊谷会館にお申し込みください。



飯森範親(いもり のりかず)
指揮

桐朋学園大学卒業後、ベルリンに留学。文化庁派遣芸術家在外研修員として、バイエルン州立歌劇場で当時の芸術総監督W.サヴァリッシュの下で研鑽を積み、1994年東京交響楽団指揮者に就任。2004年9月より正指揮者。その他、山形交響楽団音楽監督、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督等、幅広く活躍している。



朝岡聡(あさか さとし)
ナビゲーター

慶應義塾大学卒業後、テレビ朝日に入社。「ニューステーション」はなきんデー・タンク」等を担当する番販アナウンサーとなる。現在、フリーとして、テレビラジオの司会その他、クラシックコンサート企画 司会を務めるコンサート・ナビゲーターとしても活躍中。著書に「笛の楽園~僕のリーダー人生」(東京書籍)。



尾崎優衣(おさき ゆい)
ピアノ

1995年横浜生まれ。4歳よりピアノを始める。2006年、第60回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位。山口愛子賞、野村賞、都築音楽賞、毎日小学生新聞賞を受賞。NHK-BSの番組「あひのピアノ」のテーマ曲を初演。現在、埼玉県越谷市立城上小学6年生。播木三恵子、高橋つぐよき氏に師事。



東京交響楽団 管弦楽

1946年に東京交響楽団として創立。1951年東京交響楽団と改称して今日に至る。1988年以後(株)すかいらーの支援を基盤に大作にとりくみ、2002年に川崎市とフランチャイズ契約を結んでニューサザンシフォニーホールを拠点に活動。現在、桂冠指揮者に秋山和慶、音楽監督にユベール・スタン、常任指揮者に大友直人、正指揮者に飯森範親を擁する。

北欧の巨匠の調べを堪能する

NHK交響楽団 ~グリーグ没後100年 シベリウス没後50年記念~

2007年は、北欧のふたりの巨匠、エドヴァルド・グリーグ(ノルウェー 1843-1907)の没後100年とジャン・シベリウス(フィンランド 1865-1957)の没後50年に当たる記念の年。彩の国さいたま芸術劇場では、2月に「レイフ・オヴェ・アンスネス ピアノ・リサイタル」でこのふたりの作品をお聴きいただいたところだが、秋の埼玉会館には、日本を代表するオーケストラ、NHK交響楽団が、グリーグ没後100年&シベリウス没後50年を記念したプログラムで登場する。

シベリウス解釈の第一人者として国際的にも評価の高い指揮者、故・渡邊暁雄(1919-1990)の最後の愛弟子である藤岡幸夫が、恩師との思い出が詰まったシベリウス作品から、「有名な第2番よりも傑作」と思い入れている《交響曲第1番》を振るのも聴きどころ。当日、開演前に行われるプレトークも楽しみだ。

また、前半はグリーグ作品のなかでもとりわけ有名な《ペールギュント組曲》から3曲、そして仲道郁代をソリストに迎えての《ピアノ協奏曲》と名曲揃い。

NHK交響楽団の奥深い味わいを心ゆくまで楽しめよう。



藤岡 幸夫(ふじおか さちお)

故渡邊暁雄、小林研一郎、松尾葉子に師事、サー・ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務める。英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒、日本フィル指揮研究員を経て90年に渡英。94年にBBCフィルハーモニック副指揮者に就任。ロンドンの名物「プロムス」にデビュー。06年スペイン国立オウィエド歌劇場にデビュー、大成功を収め、09年に再客演決定。現在、関西フィルハーモニー管弦楽団正指揮者。2002年度渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。
<http://www.sachio-fujioka.net>



仲道 郁代(なかみち いくよ)

古典からロマン派までの幅広いレパートリーで、独奏者・オーケストラのソリストとして国内外で活躍。05年には、英国チャールズ皇太子夫妻に首席のもと、イギリス室内オーケストラ主催の「結婚音楽コンサート」に出演し絶賛された。2003年からは、地域社会の活性化と音楽文化の発展を目指し、大阪音楽大学特任教授、財団法人地域創造理事としても活動中。デビュー20周年にあたる2006・2007シーズンは、全国各地で記念リサイタルを行っている。
<http://www.ikuyo-nakamichi.com>



NHK交響楽団

1926年に日本初のプロ・オーケストラとして結成された新交響楽団が、日本交響楽団の名称を経て、1951年NHK交響楽団と改称。今日に至るまで、カラヤン、ストラヴィンスキー、アンセルメ、マタチッチなど世界一流指揮者を次々と招聘し、歴史的な名演を残している。国内での演奏会のほか、定期的な海外公演、セミナー・ステージ・オペラなどの斬新な企画、委嘱作品の充実、ジャーナル・レーベルとのCD録音など、その活動と演奏は国際的にも高い評価を得ている。

NHK交響楽団 NEW

~グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念~

【日時】10月19日(金) 開演 19:00 ※18:20~18:35に指揮者によるプレトークがございます。

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】藤岡幸夫(指揮) 仲道郁代(ピアノ) NHK交響楽団(管弦楽)
【曲目】グリーグ:《ペールギュント 第1組曲》Op.46より 朝の気分、アノトラの踊り
《ペールギュント 第2組曲》Op.55より ソルヴェークの歌
ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16 (ピアノ:仲道郁代)
シベリウス:交響曲第1番 示燈調 Op.39

【チケット(税込)】一般 S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 学生B席2,000円
メンバーズ S席5,400円 A席4,500円 B席3,600円

【発売日】メンバーズ 5月26日(土) 一般 6月2日(土)

お昼休みに気軽に音楽を楽しむ ランチタイム・コンサート

お昼休みの時間に、気軽にすてきな音楽が楽しめる「ランチタイム・コンサート」がスタート!
埼玉会館では仕事中の方も夏休み時間内で来られる40分プログラム、彩の国さいたま芸術劇場ではのんびり1時間のプログラムを用意。低料金でお昼休みを心豊かに過ごす新しい形の公演だ。

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第1回 東京交響楽団メンバーによる木管アンサンブル

【日時】6月22日(金) 開演 12:10(終演予定12:50)
【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】相澤裕宏(フルート) 稲橋隆・福井貴子(オーボエ) 十亀正司・近藤千花子(クラリネット) 大笠原内・内田秋雄(ファゴット) 竹村洋司・曾根義子(ホルン)
【曲目】モーツァルト:歌劇《フィガロの結婚》序曲
日本のうたメドレー(五木の千寿恵一ずいずいずっころしはーせつのとーやちやんせー海辺のうた)
グノー:小交響曲 変ロ短調 一9つの管楽器のための
【チケット(税込)】発売中 全席指定1,000円

NEW 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第2回 アンサンブルクワルテ

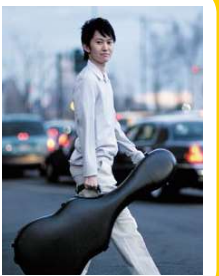
【日時】9月4日(火) 開演 12:10(終演予定12:50) 【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】横山俊朗・宮里朝弘(ヴァイオリン) 井野道大輔(ヴィオラ) 三戸正秀(チェロ) 新納益夫(コントラバス) 鈴木永子(セサ)
【曲目】エルガー:愛の挨拶 マスカニ:歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》前奏曲
J.シュトラウスII:ホルカ《智》、アンセン・ホルカ、トリリチ・トラッチ・ホルカ
グリーグ:《2つの悲しい旋律》より(晚餐) チャイフスキー:花のワルツ
【チケット(税込)】全席指定1,000円 【発売日】メンバーズ 5月26日(土) 一般 6月2日(土)
●10月19日公演(R:17)とのセット券 一般 S席6,500円 A席5,500円 B席4,600円
メンバーズ S席6,300円 A席5,400円 B席4,500円

NEW 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第3回 新日本フィルハーモニー交響楽団 メンバーによる金管五重奏

【日時】12月21日(金) 開演 12:10(終演予定12:50)
【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】藤部孝也・市川和彦(トランペット) 井手朗明(ホルン)
山口隆人(トロンボーン) 佐藤和彦(チューバ)
【曲目】クリスマス・ソング・メドレー ほか
【チケット(税込)】全席指定1,000円
【発売日】メンバーズ 8月25日(土) 一般 9月1日(土)

彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート 村治奏一 ギター・リサイタル

【日時】7月19日(木) 開演 12:00(終演予定13:00)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】バリオス:ワルツ No.3 & No.4
ガーシュイン(鈴木大介 編曲)Shall We Dance?
アーレン(渡邊 暁 編曲):オーバー・ザ・レインボウ
ジョビン/モラエス(ディアンズ 編曲):フェリシタデー
ボンファ(リマ、村治奏一 編曲):リオの散歩道
ボンセ「我が心の君」に
タレガ:アルハンブラの思い出
イルマール・ガバーデナス組曲
ディアンズ:フォコ
【チケット(税込)】発売中 全席指定1,000円



赤鼻のクラウンと一緒に体を使った表現を 「遊び—ASOBI—は芸術！」

クラウン(道化師)・ワークショップ

2年前の公演とワークショップで大人気だったクラウンのロネとジージが帰って来る。なんとと言っても子供から高齢者の方まで参加できる楽しいコミュニケーションと表現のワークショップは人気の企画。パントマイムやジャグリング、マジック、バルーンを使って面白おかしく表現して、人との交流をすることにトライ。ぜひクラウンと一緒に「幸せなキモチ」を形にしてみよう。また、9月29・30日にはロネとジージの公演も。こちらもどうぞお楽しみに。



2年前にも行われたワークショップの様子。参加者はみな楽しそう。 ©海上麻英



ワークショップの参加者たちによる2年前の公演での成果発表。ちよびり緊張気味? ©海上麻英

ロネとジージからのメッセージが届きました!
クラウンの赤い鼻の意味を知ってる人、いる? 今度のロネジジはね、そのホントの秘密をみんなに教えちゃうと思うんだ。それは魔法の呪文と同じで、上手く使えるようになるとステキなことがいっぱい始まるんだ。そうやってたくさんの冒険をしてきたロネジジと一緒に、赤い鼻、つけてみない!?

講師 RONE&Gigi (OPEN SESAME)

1990年「OPEN SESAME」結成以来「楽しい芸術」を合言葉に劇場をメインに活動するシアタークラウン・デュオ。強烈なキャラクターと確かなクラウンングを武器に国際的に活躍。クラウンカレッジ・ジャパン卒業後、モスクワ国際クラウン・フェスティバル参加、ウクライナ国立サーカスクラウン・パリエティ・スクール、モスクワ芸術座で学ぶ。97年ノーラ・レイに師事。ウイスコナン大学クラウンキャンプ(USA) 常任講師。2002年クラウン・インターナショナル(イギリス) 最優秀クラウン賞受賞。2003年モスクワ国際クラウン・フェスティバル第2位。東京都ペンアーティスト。



ロネ(右)とジージ(左)。 ©海上麻英

クラウン・ワークショップ

「遊び—ASOBI—は芸術！」 ワークショップ体験コース

【日時】8月3日(金)～5日(日) 各日13:00～17:00(3日間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

【受講料】一般3,000円 学生1,500円(保険料込み)

【定員】30名程度(小学3年生以上対象)

【申し込み】7月20日(金)必着

このほか、下記の結果発表公演に参加するコースもあります。成果発表コース参加の方は、体験コースに参加していただいた上で、その中から10名程度の方に参加していただく予定です。 ※ワークショップについての詳細はお問合せください。(案内書をお送りいたします)

彩の国さいたま芸術劇場事業部内 クラウン・ワークショップ担当 TEL:048-858-5503

クラウンのいる風景 NEW

第一部「私だけのクラウンショー'07」—さらさら☆りん!—
(ワークショップ受講者による成果発表)

第二部「クラウンのいる風景」—ロネとジージの夢のむこうがわ—

【日時】9月29日(土) 開演16:00 30日(日) 開演14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【出演】RONE&Gigi (OPEN SESAME)

【チケット(税込)】大人2,000円 子供(3歳以上中学生以下)1,000円

セット券2,700円(大人1枚+子供1枚)・いずれも全席自由

【販売日】メンバーズ6月30日(土) 一般7月7日(土)

彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾

『恋の骨折り損』観劇を もっと楽しくしてくれたイベント

彩の国さいたま芸術劇場では、人気の彩の国シェイクスピア・シリーズに関連して、様々なイベントを開催しています。少しだけ早めに劇場に来れば、誰もが素敵な音楽を楽しめるライブから、申し込み制で普段はなかなか見られない稽古場やバックステージを見られるイベントまで。3月に上演した『恋の骨折り損』でも、これらのイベントに多くの人が参加して楽しめました。

熱の入った稽古に間近で触れた 『恋の骨折り損』稽古場見学会

3月4日と5日の両日、彩の国さいたま芸術劇場 大ホールで行われた稽古場見学会には、それぞれ約50名が参加。4日が大ホールでの稽古初日と言うこともあり、稽古は最初からヒートアップ! 熱が入った稽古を間近で見学したラッキーな参加者からは、「蜷川さんの指示にすぐ対応できるスタッフにびっくり!」「ちよとした身振り、手振り、立ち位置の間隔にまで気を配る演出に感激」といった感想が。稽古を見てから本番を観れば、より一層、『恋の骨折り損』を楽しめたはず。



大ホールでの稽古を見学した参加者たち。蜷川幸雄(手前)の熱の入った演出にちょっと緊張の面持ち。

舞台の上や裏側で小さな発見を重ねた 『恋の骨折り損』バックステージツアー

3月18日の公演終了後に行われたバックステージ・ツアーでは、約30名の参加者が、舞台監督の明石伸一さんの案内で、舞台にあり、『恋の骨折り損』の舞台を覆いつくしての柳に触れてみたり、舞台裏を見学したり……。客席から見える舞台は意外と狭く、逆に舞台裏はとても大きいことに、参加者一同驚いた様子。また、美術プランナーの中越司さんからは、この柳は実は紙でできており、3種類計5,000本の枝を束ねて作られている、などといった貴重な製作秘話を聞く事も。小さな発見を重ね、約40分ほどのツアーは充実した時間となったようです。



舞台上がり、各々、セットの柳に触ってみる参加者たち。

開場前に、観劇気分を高めた アーツ・シアター ライヴ!!

彩の国シェイクスピア・シリーズの恒例となった「さいたまアーツ・シアター ライヴ!!」。3月16日から31日まで上演された『恋の骨折り損』公演の際にも、開場前の30分間、劇場内の情報プラザなどで演奏されました。今回の演奏者は、若手のソロ及びアンサンブルから巨匠と言われる方まで、バラエティに富んだラインナップ。公演を楽しみに、ワクワクした気持ちで劇場を訪れた多くの方が足を止め、素敵な音楽に聴き入った様子でした。今後も、このライブは実施される予定なので、観劇に訪れる際は、開場の30分前に劇場へ行くことをお勧めします。



情報プラザで行われた若手のアンサンブルに聞き入る観客。

NEW 彩の国さいたま芸術劇場 蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA千の目 第9回

歌手・作曲家・俳優 宇崎竜童 × 演出家 蜷川幸雄

【日時】6月17日(日) 13:00～(約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【定員】150名(入場無料)

【出演】宇崎竜童(うさぎりゅうどう) 京都市生まれ。1973年にダウ・タウン・ピグウィキ・バンドを結成しデビュー。『港のヨロコヨコハマ・ヨコスカ』など数々のヒット曲を生み出す。作曲家としても活動を続け、『思い出ほろほろ』(1976)で日本レコード大賞作曲賞、『駅—STATION』(1981)などで日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞。2006年、『ロック賞観劇心中』と蜷川幸雄演出『天保十二年のシェイクスピア』の音楽で、第13回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。現在は、アーティストへの楽曲提供やプロデュース、映画、舞台音楽の制作や俳優として、幅広く活動中。



<応募方法>

はがき(以下)の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。(応募多数の場合は、抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。)

- 記入事項 ①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④希望人数(1枚のハガキで2名まで)
- 応募締切 5月31日(木) 当日消印有効
- 応募先 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 (附)埼玉県芸術文化振興財団「千の目」入場券係
- 問合せ先 財団メンバーズ事務局 tel.048-858-5507

※ご応募頂いた方の個人情報につきましては、本公開対談の抽選及び入場券の発送のためにのみ利用させていただきます。

PICK UP で紹介しきれなかった公演情報 EVENT INFORMATION

PLAY

7.14 NEW

松竹大歌舞伎

「仮名手本忠臣蔵 祇園一カ茶屋の場」



大星由良之助(中村吉右衛門)は、敵討ちの本心を悟られた道女おか(中村芝翫)を殺そうとして...

- 7月14日(土) 昼の部13:00 夜の部17:00
熊谷会館
出演:中村吉右衛門 中村芝翫 中村歌昇 市川染五郎 市川高麗蔵ほか

5.26 6.9

光の庭プロムナード・コンサート

構成:大塚直哉

ボジティブ・オルガンを中心とした40分間のミニ・コンサート。土曜の午後の昼下がりには光庭のある情報プラザで行います。

- 5月26日(土) 開演 14:00
熊谷会館
出演:広沢麻美(オルガンとおはなし) 石淵聡(マンドリン)



6月9日(土) 開演 14:00

- 熊谷の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
出演:大久しおり(オルガンとおはなし) 山崎千恵(ソプラノ)

7.16 NEW

「みんなのオルガン講座 ~Organ for ALL」

基本コース受講生発表会

- 7月16日(月・祝) 開演 14:00
熊谷の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
出演:「みんなのオルガン講座 ~Organ for ALL」基本コース1期生(アンサンブル) 2期生(ソロ)



9.29 NEW

宮本益光 ふれあいコンサート

熊谷の国さいたま芸術劇場でリサイタルを行うバリトン歌手、宮本益光が、公演前日、劇場周辺の小中学生やそのご家族等を対象に、大練習室で間近にその声の魅力を感じていただくふれあいコンサートを行います。



- 参加者募集
9月29日(土) 開演 14:00
熊谷の国さいたま芸術劇場 大練習室
対象:劇場周辺にお住まいの小中学生及びその保護者等

- スタッフ募集
対象者:ふれあいコンサートの制作・広報に携わっていただける方で、打ち合わせ等のため、劇場に頻りに来場できる方。

AT RANDOM

7.8 ~ 源氏語り54帖

身近な言葉で難解な古典文学を現代によみがえらせる三田村雅子の解説と、(生きた古典の言葉)で語る幸田弘子の朗読で、源氏物語54帖すべてを眺め解いていく壮大なシリーズ。



- 第38回 7月8日(日)「幻」 第39回 9月16日(日)「雲隠」
各回 開演14:00
熊谷の国さいたま芸術劇場 小ホール

7.13 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~林家木久蔵・きくお

夏の四季彩亭は、林家木久蔵・きくおの親子競演です。実子きくおの真打し昇進、木久蔵親名に伴い、新装を全幕した木久蔵師匠。9月にダブル襲名を行う二人の、襲名直前公演です。



- 7月13日(金) 開演19:00
熊谷の国さいたま芸術劇場 小ホール
チケット(税込):一般3,000円 メンバース2,700円

CINEMA

7.13-7.15 彩の国シネマスタジオ

「監督特集 ケン・ローチ」

彩の国シネマスタジオ初の「監督特集」は、ケン・ローチです。今回は見事カンヌのバルムールに輝いた『妻の穂をゆらす風』(A・130分)をはじめ『Sweet Sixteen』(B・106分)、『明日へのちぎれ』(C・110分)の3作品をお届けします。



Table with 4 columns: Time (10:00, 13:00, 16:00, 19:00) and 4 rows of days (7/13, 14, 15).

- 14日(土) 13:00 上映回数はアタラシキアクトあり!
熊谷の国さいたま芸術劇場 映像ホール
チケット(税込):
一般 前売券 1,000円 3作品セット 2,700円

8.10-8.12 彩の国シネマスタジオ「ひまわり」

ナボリの女性ジョヴァンナは、ソ連の戦線に送られて以来、戦後も行方不明になっている夫を探すことを決心する。だが、探し当てた夫は、シベリアの娘と幸せな結婚を...



- 8月10日(金) 12:45, 16:00, 18:45
11日(土) 10:00, 12:45, 16:00, 18:45
12日(日) 10:00, 12:45, 16:00
熊谷の国さいたま芸術劇場 映像ホール
監督:ピットリオ・デ・シージャ

チケットの購入方法について

窓口販売
各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、お会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

窓口営業時間
彩の国さいたま芸術劇場 10:00~19:00(休館日を除く)
埼玉会館 10:00~19:00(休館日を除く)
熊谷会館 10:00~17:00(休館日を除く)

電話予約&販売
チケットの電話のご予約は、財団チケットセンターにて承っております。

インターネットでの販売期間
ホームページ(http://www.saf.or.jp/)から、空席状況の検索、チケットの購入が可能です。

チケット代の支払い方法

- 窓口 現金、クレジットカード
電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込
インターネット クレジットカードのみ

セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて
●セット券・連続券は、原則として前売りのみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。

ご注意及びお願い事項

- チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただきます。
●チケットの紛失の際は、チケットセンター(電話:048-858-5511)にお問い合わせください。

サポート企業一覧 (H19.3.21現在71社)

- (株)と野フードセンター / (株)亀屋 / 武州ガス(株) / (株)エフテック / (株)松本商会 / (有)香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社
(株)テレビ埼玉ミュージック / 金井大道具(株) / 埼玉りそな銀行 / (株)パシフィックアートセンター / アサヒ印刷(株) / FM NACK5



発行日:2007年5月15日
熊谷版掲載
©(財)埼玉芸術文化振興財団
Published on 15-May 2007
All Rights Reserved
by Saitama Arts Foundation

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
電車でのアクセス JR埼京線与野駅(西口)下車 徒歩7分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-4-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-929-2535 ファックス 048-929-2536
電車でのアクセス JR越後線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

発売中及び近日発売のすべての公演情報

EVENT CALENDAR

PLAY

6.22 さいたまゴールドシアター第1回公演
7.1 さいたまゴールドシアター第1回公演
『船上のピクニック』

7.14 松竹大歌舞伎

7.14 (土) 昼の部 夜の部
熊谷会館
詳細はP.20にて

8.9 蛭川幸雄演出 見世物祝祭劇
9.2 『エレンディラ』

8.9 (木) ~ 9.2 (日) (全27公演)
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.8~9にて

10.4 彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾
10.21 『オセロ』

10.4 (木) ~ 21 (日) (全18公演)
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.10~11にて

DANCE

7.28 サシャ・ヴァルツ&ゲッツ
7.29 『Körper ケルバー (身体)』

7.28 (土) ~ 29 (日)
彩の国さいたま芸術劇場大ホール
詳細はP.12~13にて

MUSIC

7.7 ニューヨーク・フィル・プラス
クインテット

7.7 (土) 開演 16:00
彩の国さいたま芸術劇場
音楽ホール
チケット(税込) 一般4,500円 学生1,500円
メンバーズ 一般4,050円



©David Frjysson

9.8 ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.2 イリヤ・ラシュコフスキー

9.8 (土)
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.14にて

9.30 宮本益光バリトン・リサイタル

9.30 (日) 開演14:00
彩の国さいたま芸術劇場
音楽ホール
チケット(税込) 一般3,000円 学生1,000円
メンバーズ 一般2,700円



10.19 NHK交響楽団
~グリーグ没後100年・
シベリウス没後50年記念~
10.19 (金) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.17にて

10.27 白井光子(メゾソプラノ) &
ハルトムート・ヘル(ピアノ)
リートデュオ・リサイタル

10.27 (土) 15:00
◆彩の国さいたま芸術劇場
音楽ホール
◆チケット(税込) 一般4,000円 学生1,500円
メンバーズ 一般3,600円



11.10 イェフィム・ブロンフマン
ピアノ・リサイタル

11.10 (土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.15にて

11.17 小山実稚恵 ピアノ・トリオ
夢の響演II

11.17 (土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.15にて

COMMUNICATION

5.26 光の庭
6.9 ブロムナード・コンサート

5.26 (土) 6.9 (土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
詳細はP.20にて

6.17 NEW 蛭川幸雄公開対談
NINAGAWA 千の目 第9回

6.17 (日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.19にて

6.22 埼玉会館ランチタイム・コンサート
第1回 東京交響楽団メンバーによる

6.22 (日) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.16にて

7.16 『みんなのオルガン講座
~Organ for ALL』

7.16 (月)
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
詳細はP.20にて

7.19 彩の国さいたま芸術劇場
ランチタイム・コンサート

7.19 (木)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.17にて

8.3 NEW クラウン・ワークショップ

8.3 (金) ~ 5 (日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
◆10月19日(金) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.18にて

8.5 埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラ!

8.5 (日) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.16にて

9.4 NEW 埼玉会館ランチタイム・コンサート
第2回 アンサンブルクラレテ

9.4 (火) ◆埼玉会館 大ホール
詳細はP.16にて

9.29 NEW 宮本益光ふれあいコンサート

9.29 (土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
詳細はP.20にて

NEW クラウンのいる風景

9.29 (土) 詳細はP.18にて

AT RANDOM

7.8 源氏語り54帖

7.8 (土) 9.16 (日)
◆第38回 7月8日(日)『幻』
◆第39回 9月16日(日)『雲陽』
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
詳細はP.20にて

7.13 彩の国さいたま寄席
四季彩亭 ~林家木久蔵・きくお

7.13 (金)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
詳細はP.20にて

6.22 彩の国シネマスタジオ『ゆるる』

6.22 (日) 6.24 (日)
23 (土) 23 (日) 24 (日)
10:00~12:10 13:00~15:10
16:00~18:10 19:00~21:10
※6/23、13:00 上映後にアフタートークあり!
※6/22、13:00 は、音声ガイドつき上映です。
◆監督:西川英和
◆出演:オダギリジョー 香川照之 伊武雅刀 木村祐一 ほか
(2006年/日本/119分)
◆チケット(税込):全席自由
一般前売1,000円 当日1,200円 小中高生 前売800円 当日1,000円



7.13 彩の国シネマスタジオ
『監督特集 ケン・ローチ』

7.13 (金) ~ 15 (日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.20にて

8.10 NEW 彩の国シネマスタジオ『ひまわり』

8.10 (金) ~ 8.12 (日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.20にて

「さいたまゴールド・シアター」『埼玉アーツシアター通信』では、
46名の団員すべてをご紹介します。
役員を目指し、毎日、頑張っている団員にご注目。

森下隆一(もりしたけい)さん 78歳
長年、声楽をやってきた経験を活かし、2回目の中間発表では舞台の転換で登場し、歌を唄って、観客を芝居の世界へ誘う役を担った森下さん。「今まで唄ってきたホールとは違って、公演した(彩の国さいたま芸術劇場)大稽古室は狭いし、お客さんは近いです、声がか響かなくても明いにくかったです」。発声には自信があったが、ましてやセリフはやはり敢とは違ふ。「語尾まで声を通すのがどれだけ大変なことか実感しています」。
1.半世紀の間、声楽にのみめり込み、男声合唱を中心に日本の歌曲、ロシア民謡、イタリーの古典などバリトンで唄って来たが、役者としての訓練を受けることで歌に磨きをかけることができたと挑戦した。歌は語るように言われています。
2.今まで経験したことのない芝居の世界で貴重な多くのことを学びました。
3.セリフに思い込み、顔を重んじ、それにふさわしい演技を目指したい。
4.1年間の稽古の成果を出したい。

森安恵(もりやすえ)さん 64歳
実業の世界で長年活躍してきた森さん。「私は人生のその時その時に必要な役割を演じてきたと思っています。そういう経験を演技に生かすことが少し少なくなってしまいました」。
1.蛭川さんの立ち上げの主旨に100%共鳴した事と未知の世界で新たな挑戦をしてみたかった。
2.当初1ヶ月は通うだけで死んでしたが、少し馴れてくると新しい仲間たちとのレッスンの日々が経つのが早く感じられた。稽古で蛭川さんからは「ディスコミュニケーション」「セリフの言い方」がカギだった。「下手くそ!と痛打を浴びつ放し。でも2回目の中間発表では全体の中心で、自分がどう動くかを学び、舞台はスタッフを含めて皆で創造するのだということを実感しました。
3.劇場の隅々まで声を通すこと。自然なセリフ演じと存在感で役を演じること。
4.日常生活が練り込まれた岩松たけし作品を蛭川マジックとスタッフの方々を支えられ、お客様に喜んでいただける舞台にするために、団員皆と一生懸命やりたいたいと思っています。



渡邊幸奴(わたなべ あんぬ)さん 65歳
カラオケに行っても暇わないほど聴きかしがりやどけた渡邊さん。稽、入団後半年ほどで、「これではいけない。もっと聴をきらさないで、一歩も前に進まない」と思い、蛭川の前で歌を唄った。「あれは私にとっても通達された」。
1.「時」が私の背を押してくれたとしか言いがありません。ちょうど初孫が誕生して数日後に新聞紙上に募集の記事を見つけました。私が暇すぎると娘を甘やかすと言うのも動機ですが、蛭川幸雄さんだった事が決定的でした。
2.芝居をつくる側に立ってみたいのは初めての経験でしたが、蛭川さんははめ、多くのスタッフが芝居をつくりあげていく緊張感溢れる過程を拝見できたことは感動です。「趣味ではなく、カルチャーでもなく、プロとして」と蛭川さんがおっしゃった意味が、今理解できるようになりました。
3.声のボリュームをあげる。役柄に感情を移入してセリフに反映させること。そして自分の素顔を晒すこと。
4.健康の維持。芝居は登場人物全員が丸ごと成り立つもの。どんな役であれ全うしたいと思っています。

吉久智恵子(よしひさちえこ)さん 61歳
演技の経験はまったくなかった吉久さん。経験者も多い団員の中で最初とはまだいがあったという。が、2回目の中間発表会で蛭川に「この時間(舞台の上で演じる間)はどう使ってもいい」と言われたことで吹っ切り、自ら考案した「お蔵い婆」役を伸び伸びと演じた。吉久さんの願った「変身」は着実に進行中のだ。
1.38歳で営業の世界に飛び込み、それから23年間。家族の犠牲願みず猪突猛進で営業したが、60歳という区切りで「変身」したいと切に願うようになった。
2.5月末、もう一人で生活できないという義父と同居を始めた。仕事関係で息子家族が東京に住むようになり、父と初孫とレッスンと忙しく、営業とはまた違った緊張感を必要とされていた。
3.いつまでも初心者マークはつけていない。勉強したい、彩の国さいたま芸術劇場の中には、見るもの、聞けるもの、すべて触ってみたい。触れていって感性を高め、これからの人生、違う自分を見つけていきたい。
4.感謝して「変身」。思いきりトライです!

宮田道代(みやた みちよ)さん 58歳
20歳から2年間、劇団の養成所にいた以来の演劇への挑戦。「当時、蛭川さんのいらした『青俳』は気になると聞いて、その後の『櫻社』も聞いてお楽しみも2本観ています」。それから約40年近く経って、その蛭川に指導を受ける立場になるとは、誰も想像もしなかったに違いない。そのことに喜びつつも、今はただただ蛭川の演出の難しさに習熟する日々だ。「蛭川さんの要求は簡単なおうでいて、本当に難しい。役のセリフや行動がなぜ出てくるのかを考えなければ、それを演じるために自分の記憶の中からあらゆる要素を抜き出して、それを再構築しなければダメだと痛感しています」。2回の中間発表を観た家族は、宮田さんの演技に各々35分、60分とつけた。さて本公演は何点つけてくれるだろうか。
1.すっかり忘れていた思いが頭の隅を駆け巡る。ウジウジ悩んでいる私の背中をドーンと押してくれた夫に感謝。
2.日々、24時間、自分の為だけに使える至福!
3.言い訳をしなさい。 4.大切に、丁寧に演じたい。



Minami



Akinori Nakagawa

エレンディラ

erendirā



Tetsuro Sagawa



Jun Kunimura

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 48
CONTENTS

02 talk・talk・talk 森山良子

06 PICK UP さいたまゴールド・シアター第1回公演
「船上のピクニック」

08 PICK UP 「エレンディラ」

10 PICK UP 影の国シェイクスピア・シリーズ第18弾
「オセロー」

12 PICK UP サシャ・ヴァルツ&ゲスト
「Körper ケルバー(身体)」

14 PICK UP ピアノ・エトワール・シリーズ

15 PICK UP イェフィム・ブロンフマン
小山実稚恵 ピアノ・トリオ

16 PICK UP 夏休みオーケストラランド!

17 PICK UP NHK交響楽団

18 COMMUNICATION

20 EVENT INFORMATION

22 EVENT CALENDAR

23 さいたまゴールド・シアター